

## 北海道本別高等学校

課程 全日制  
学科 普通科  
生徒数 217名

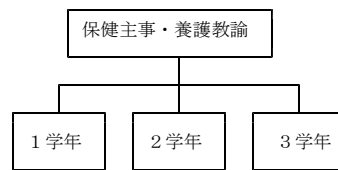
### 1 事業のねらい

- 1 幼少期から同じ集団における人間関係が継続しており、生徒の対人コミュニケーションスキルが不足していることから、コミュニケーション能力を高めることにより、集団内の良好な人間関係の構築を目指す。
- 2 構成的グループエンカウンター等により、教員の予防的・開発的教育相談スキルの一層の向上を図り、生徒の問題行動等を未然に防止するため。

### 2 取組の経過

- (12月)  
・第1回コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習（ピア・サポートトレーニング）の実施
- (1月)  
・第2回コミュニケーションスキル育成コーディネーターによる演習（ピア・サポートトレーニング）の実施

<組織図>



### 3 主な取組の内容

- 1 目的
  - (1) 集団内の良好な人間関係構築を目指し、学校生活不適應の解消を図る。
  - (2) 高校卒業後も社会に適用するコミュニケーションスキルを有する生徒の育成を図る。
- 2 日時、場所
 

平成22年12月20日(月)	4校時	2A・2B	体育館	5校時	1A	英語科教室
	6校時	1B	英語科教室			
平成23年1月26日(水)	4校時	2A・2B	体育館	5校時	1A	英語科教室
	6校時	1B	英語科教室			
- 3 講師  
中野武房 函館大谷短大客員教授
- 4 内容
  - (1) 平成22年12月20日
    - ・2年生「大切にしたいランキング、内観法」
  - 大切にしたいものや自分を振り返るシートを活用し、自己理解の深化を図った。

- ・1年生「大切にしたいランキング、怒りの解消法」  
自分が何に対して怒るのかを客観視し、怒りの解消法といじめの構造についての理解を図った。
- (2) 平成23年1月26日
  - ・2年生「傾聴訓練（足し算トーク）、アサーショントレーニング」  
話し手、聴き手の両方を体験しながら、どのような聴き方をすれば相手が話しやすいのかを学んだ。また、相手にとっても自分にとっても望ましい自己主張の仕方、ワークシート等を活用しながら理論的に考えるトレーニングをした。
  - ・1年生「プラスのストローク、友達にしてもらって嬉しかったこと」  
他の人に自分がどう思われているのかを聞くことにより、自己理解を深めた。また、「悪い部分」ではなく「良い部分」に目を向け表現しあうことにより、思いやりのあるコミュニケーションの良さを体感した。
- (3) Q-Uテストの実施  
昨年度と今年度に、Q-Uテストを実施した。グラフの変化や個人の位置を分析し、生徒理解を深める機会となった。支援を必要とする生徒へ積極的に声かけを行った結果、教師と生徒の信頼関係がより深まった事例もあった。



### 4 成果と課題

- 成果  
生徒のコミュニケーション能力の向上により、集団内の良好な人間関係が構築された。生徒からは「怒りを取る方法やストレス解消法などがためになった。」「両親や他人に対する感謝の気持ちが強くなった。」などの感想が寄せられており、不登校生徒や中途退学生徒の減少からも、他人を思いやることのできる生徒集団が確実に形成されている。
- 課題  
コミュニケーションスキルトレーニングがその場限りで終わらないよう、学校生活や家庭生活での応用を促す指導の工夫が必要である。
- 次年度に向けて
  - ・成果の検証を行うとともに、より効果的なトレーニングの組み立て方や、今後の教育活動において、どのような形にして実践していくかなどについて計画を立てる。また、事後にアンケート、レポート等を書かせ、それを個人面談やホームルーム活動の材料とする。
  - ・Q-Uテストによる「侵害行為認知群」の割合も検証を継続し、学級環境適応調査の実施も複数回行う。
  - ・各教科や総合的な学習の時間、特別活動の中で、自分の思いや考えを適切に表現し、話し合う活動を行うなど、コミュニケーションスキルトレーニングで学んだことの定着と深化を図る。
  - ・ピア・サポートの回数を増加するための工夫を図る。